

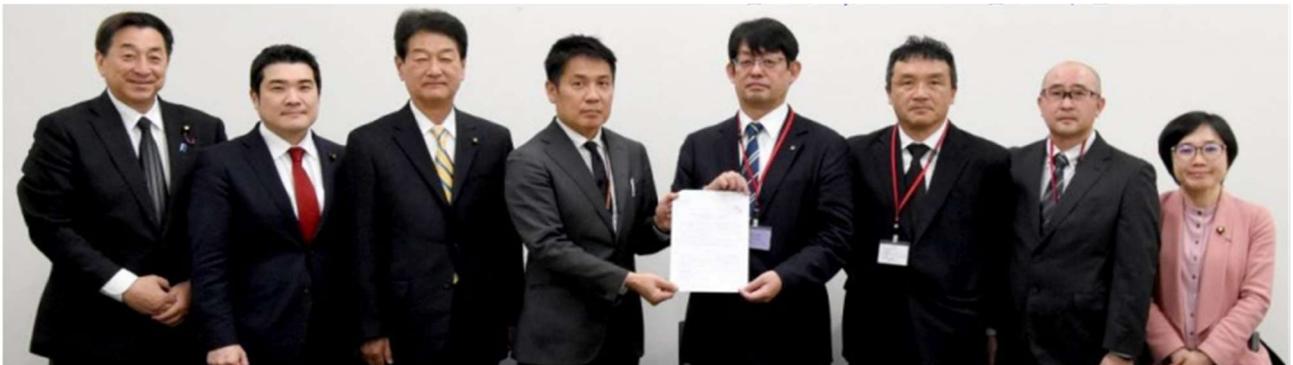


ニデックによる牧野フライス製作所買収阻止 —企業買収における行動指針の意義を質問で確認—

ご安全に！ 参議院議員の村田きょうこです。さて、3月27日の参議院経済産業委員会にて、マキノ労働組合とJAMより要望依頼を踏まえて、企業買収における行動指針について、適切な運用をされているのかを質問しました。その前段に、3月21日に経済産業省、3月26日の記者会見をマキノ労働組合の皆さんの記者会見についても紹介します。結果、ニデックは牧野フライス製作所労働組合を断念することになりました。

同意なき買収（敵対的TOB）に対する行動指針強化を求め経済産業大臣へ要請

- マキノ労働組合とJAMは、3月21日に経済産業省を訪問し、武藤経済産業大臣宛てに要請を実施した。
- 要請要旨は、①労働組合はM&Aにおける重要なステークホルダーであることの周知 ②「企業買収における行動指針」の強化③事前に十分に協議する「友好的買収」を第一義とすること。
- 河野審議官からは、指針が都合よく切り取られており、従業員を含めたステークホルダーは、企業価値向上に必要不可欠であることを明言するなど前向きな回答を得た。
⇒詳細は、JAMトピックス「同意なき買収（敵対的TOB）に対する行動指針強化を求め経済産業大臣へ要請」を参照



左から、古賀ゆきひと参議院議員、山岡達丸衆議院議員、大島敦衆議院議員、河野審議官（経産省）、安河内会長、マキノ労組執行部、村田きょうこ参議院議員

企業買収において、従業員の理解が必要不可欠



村田きょうこ
参議院議員

● 企業買収における行動指針を策定した目的はなにか。

● 指針の策定の目的は、M&Aに関する公正なルール形成に向けて、企業価値の向上と株主共同利益の双方に資する望ましい買収を促進するためである。

● 指針の中にある、企業価値の向上とともに株主利益の確保とあるが、買収時期に高い株価を示せばよいということか。

● 企業価値の向上と株主利益の確保、双方が大事との答弁があったが、真摯な買収提案とは何か。同意なき買収も真摯な買収提案になるのか。



- 企業価値又は株主共同の利益のどちらかのみに資する買収を促進していない。
- 指針の企業価値は、短期的に高い株価を実現することだけではない。
- 真摯な買収提案とは取締役会での同意の有無の区別はしていない。

河野参考人
(経済産業省)

村田きょうこ
参議院議員

- 2023年8月の行動指針が策定されてから、指針が同意なき買収を促進しているのではないか。
- 指針において、株主の利益の確保だけが強調されているのではないか。指針の本来の意味の周知徹底をすべきではないか。

- 経済産業省としても、本指針の趣旨がしっかり理解されるよう努力する。

河野参考人
(経済産業省)

村田きょうこ
参議院議員

- 指針において、企業価値の向上に貢献しているステークホルダーに、従業員が含まれていることを広報して欲しい。
- 従業員から意見を聞き、理解を求めることが指針において重要である。

- 重要なステークホルダーである従業員等の理解・協力を得ることが、企業価値の向上につながると考えている。従業員が重要なステークホルダーであることを含め指針を周知していきたい。

河野参考人
(経済産業省)

- 過去に経営者として企業買収を経験したことある立場として、従業員の理解を得ることが出来なければ、その後は非常に会社経営として厳しい側面がある。



武藤容治経済産業大臣



質問を傍聴する、マキノ労働組合三役とJAM神奈川書記局



解説動画



質問動画

【発行元】JAM 政治センター
TEL:03-3451-2451

〒105-0014 東京都港区芝2-20-12
公式サイト⇒<https://murata-kyoko.com/>